

病害虫発生予察特殊報第 1 号

平成 21 年 10 月 28 日

三重県病害虫防除所

本県のミニトマトにおいて、トマト葉かび病抵抗性遺伝子 *Cf-9* を持つトマトやミニトマトの品種を罹病させる病菌のレースが確認されました。*Cf-9* を無効にするレースは本県では初めての確認となります。

- 1 病害虫名 : トマト葉かび病菌レース 4.9.11
[病名: トマト葉かび病 *Passalora fulva* (Cooke)]
- 2 発生確認作物名: ミニトマト
- 3 発生確認地域 : 伊勢市
- 4 発生確認の経過

平成 21 年 2 月に伊勢市のトマト葉かび病抵抗性品種 (*Cf-9*) のミニトマトにおいて、葉かび病と思われる症状が発生しました。三重県農業研究所において診断した結果、トマト葉かび病であると確認されたので、同研究所が葉かび病菌レースの同定を独立行政法人野菜茶業研究所に依頼したところ、レース 4.9.11 であることが判明しました(レース名の数字は、抵抗性遺伝子 *Cf-4*、*Cf-9*、*Cf-11* の品種に罹病性であることを意味します)。

これまで日本では *Cf-9* の品種を罹病させるレースとして、平成 20 年に福島県(特殊報; レース 4.9.11)、群馬県(特殊報; レース 4.9、レース 4.9.11)、平成 21 年に岩手県(農業研究センター試験研究成果書; レース名記載なし)及び愛知県(農業総合試験場情報; レース 4.9)で公表されています。

本県ではこれまでにレース 2、レース 4、レース 4.11 が確認されています。

5 特徴

抵抗性遺伝子 *Cf-9* の導入されたトマト、ミニトマトの品種において葉かび病が発生した場合は *Cf-9* を無効にするレースによるものと考えられます。(なお葉かび病菌のレースは検定を行わないと確認できません。)

本病と病徴が類似するトマトすすかび病は、肉眼では区別が困難です。そのため葉かび病抵抗性品種において病徴が確認された場合、今回のレースではなく、すすかび病である可能性もあります。なお、すすかび病は本県でも広く発生しており、顕微鏡観察による分生子の形状で区別がつかます。

6 防除対策

抵抗性が打破された場合は、すすかび病でないことを確認のうえ、通常の葉かび病の対策を取ってください。

詳細については、別紙「(参考資料) トマトの葉かび病とすすかび病」をご覧ください。

(参考資料) トマトの葉かび病とすすかび病

1 共通の特徴

- ・ 病原は糸状菌（かび）です。
- ・ 葉の裏側に灰色のかびによるピロード状の斑紋ができ、次第に拡大します。
- ・ はなはだしい場合は、ほとんどの成葉が枯れてしまいます。



トマト葉かび病（葉裏）

2 区別点

- ・ 肉眼での区別は非常に困難ですが、顕微鏡で分生子を観察すると、明瞭に区別できます。



葉かび病菌の分生子： 俵型



すすかび病菌の分生子： 針型

3 発生生態

- ・ 発生源は、被害残渣、種子、施設内の資材等です。
- ・ 多湿条件で多発します。
- ・ 病原菌の生育適温は少し差があります。

葉かび病： 20～25℃

すすかび病： 26～28℃

4 防除対策

- ・ 葉かび病抵抗性品種であっても注意を怠らず、初期の発生を見逃さないようにしてください。
- ・ 多湿で発生が多くなります。茎葉が繁茂するころからは特に換気に努め、過度の灌水をさけるなど多湿にならないようにしてください。
- ・ 発生したら、早い目に薬剤防除してください。
- ・ 発病葉は次の発生源になりますので、除去した場合は施設外に出し、適切に処分してください。

5 注意事項

両病害の区別ができないときは、病害虫防除所やもよりの農協、農業改良普及センターにご相談ください。